

# ブラジルの政策金利引き下げについて

## ポイント① 政策金利を6.75%に引き下げ

2月7日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き下げ、年率6.75%とすることを決定しました。

11会合連続での利下げとなり、過去最低の金利水準を刷新しました。前回の金融政策決定会合後の声明において利下げペースの減速を示唆していたこともあり、利下げ幅の0.50%から0.25%への縮小は、市場参加者の大方の予想に沿うものでした。

## ポイント② インフレ動向は引き続き良好

同中銀は、良好なインフレ動向を受け、引き続き同国の経済活動を支援するために利下げを決定しました。

昨年12月のインフレ率（拡大消費者物価指数）は、前年比2.95%と4か月連続で上昇したものの、同中銀の目標レンジの下限水準である3.0%を依然下回る低水準に留まっています。同中銀はインフレ動向について前回会合同様、「望ましい状況が続いている」と述べています。

今後のインフレ率見通しについて同中銀は、市場参加者が予測する政策金利水準（2018年末については6.75%、2019年末は8.0%）を前提としながら、2018年、2019年ともに4.2%程度と前回会合時の予想を据え置きました。

同中銀は、「基本シナリオ、リスクバランス、入手可能な幅広い情報を考慮し、0.25%の利下げを全会一致で決定した」としています。

## ポイント③ 利下げサイクルの終了を示唆

同中銀は、「状況が基本シナリオ通りに推移すれば、次の会合では金融緩和プロセスを中断することがより適切と現時点では考える」とし、利下げサイクルの終了を示唆しました。

一方で、基本シナリオやリスクバランスに変化があれば追加的な緩和に傾く可能性にも言及し、利下げの可能性を完全には排除しない姿勢も示しました。

図1：政策金利の推移

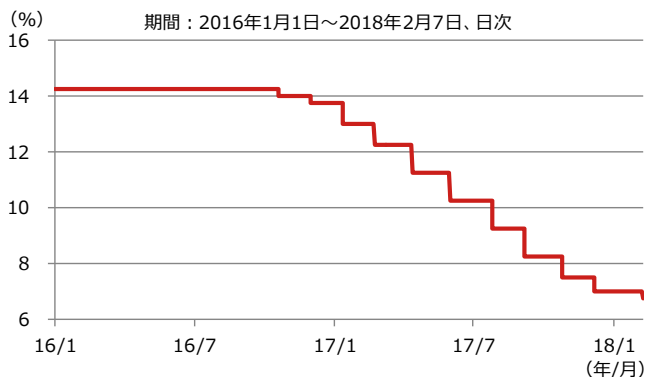


図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

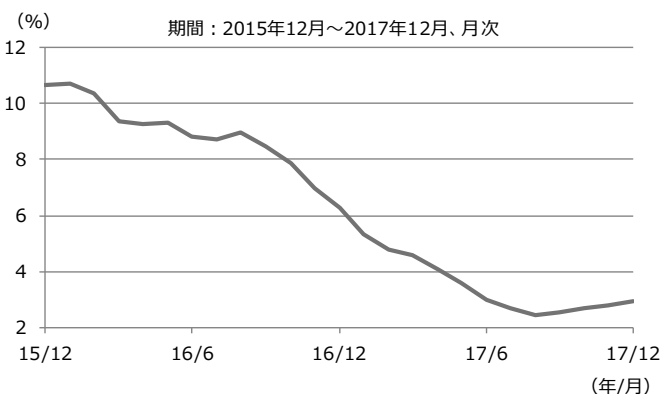
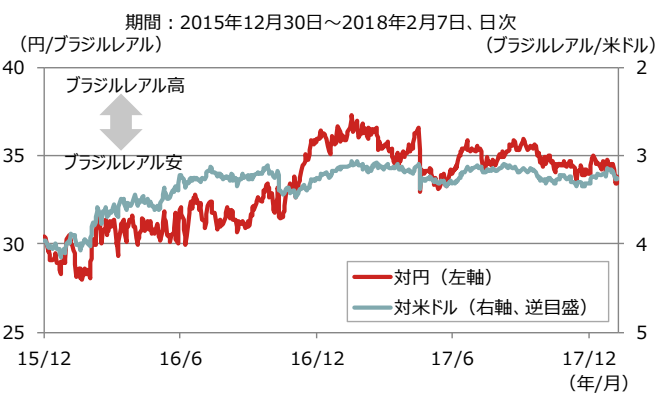


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

2月8日	IPCA（拡大消費者物価指数、1月）
2月26日	経常収支(1月)
3月1日	GDP（国内総生産、10-12月期）